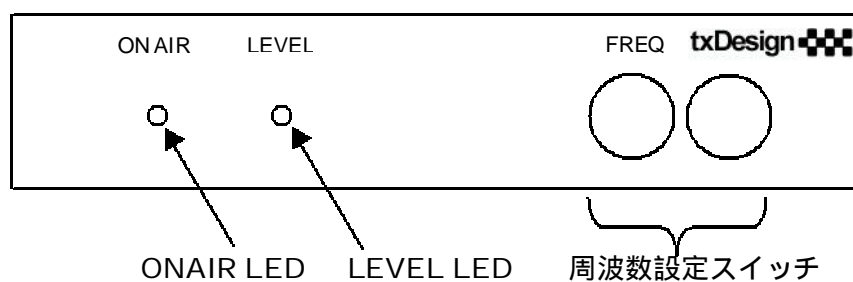


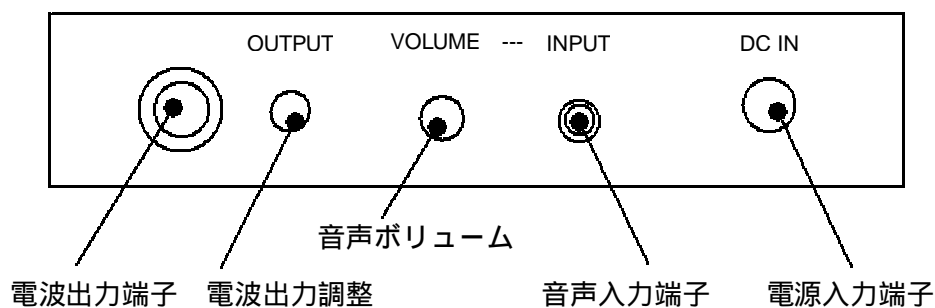
お買い上げありがとうございます。本書をよく読み、正しくご使用下さい。

< 本体各部名称 >

前面パネル




背面パネル



< 対応する電源について >

付属、または下記仕様に対応する AC アダプタ、DC12V のシガーソケットまたは電源装置。

出力電圧：DC10～15V 供給電流：200mA 以上

電源プラグ：内径 2.1mm 外径 5.5mm 極性：センタープラス 

<使用方法>

音声送出機器、対応する接続ケーブル、FM チューナを別途ご用意下さい。

予め、送信しようとする周波数、及びその周囲の周波数に他の放送がないことを確認して下さい。

1. 本体の「電波出力端子」にアンテナもしくはアンテナに接続されるケーブルを接続します。
2. 「音声入力端子」に CD プレーヤなどの音源機器と適合したケーブルで接続します。
3. 送信周波数は、底面の **80M < > 70M** スイッチで 70MHz 台か 80MHz 台を選択し、「周波数設定スイッチ」の左で 1MHz 台、右で 0.1MHz 台を設定します。例えば **80M < > 70M** スイッチを 80M 側にし、「周波数設定スイッチ」を左から 3, 7 にセットすれば、送信周波数は 83.7MHz となります。出荷設定は 83.0MHz です。
4. 「電源入力端子」に AC アダプタのプラグを接続します。AC アダプタ本体は 100V のコンセントに接続します。
5. 「ON AIR LED」は電源投入で赤色に点灯し、数秒後に緑色に点灯します。
6. 音量は、音声送出側の出力レベルに応じて「音声ボリューム」を回して、「LEVEL LED」が緑色点滅する程度に調整します。時計回りでレベルが大きくなります。入力レベルが小さい場合、底面の **INPUT GAIN** スイッチを「H」に切り替えて下さい。「LEVEL LED」が赤色点灯する場合はレベルが大きすぎるので、下げるように調整して下さい。
7. FM チューナ、FM ラジオ等で、設定した送信周波数を受信し、正常に聞こえるか確認します。他の放送(FM, TV 等)に妨害を与えていないか確認して下さい。

- ・「電波出力調整」は電波出力の増減調整ですが、特に必要がなければ動かさないで下さい。
- ・送信しない時は、AC アダプタをコンセントから抜いて下さい

<詳細説明>

- 音声入力は iPod 等のポータブル機器や、市販の一般的な据置型音響機器出力レベル（ラインレベル）から業務用機器の+4dBu に対応。一部のポータブル機器や一般的なマイクロフォンはレベルが低いため本器に直接入力できません。
- 本器の音声入力はステレオアンバランス入力です。使用するケーブルは LR 独立したシールドケーブルを推奨、コネクタは 3 極の 3.5 ミニプラグを使用し、L（左）チャンネルをチップに、R（右）チャンネルをリングに、シールド線（グラウンド）はスリーブに接続します。市販の一般的なものと同一です。
- 入力にフィルタを設けており、CD 等の音源を直接入力できますが、コンプレッサ等で FM 放送の特性に適した処理を行った方が、より品質の高い送信波となります。
- 「LEVEL LED」は変調レベルモニタで、音量が低い時消灯していますが、適正な変調レベルに達すると緑色に点灯し、音量が過剰な時は橙～赤色点灯します。（入力レベルによらず、電源投入時には一瞬点灯します。）
「LEVEL LED」が緑色点灯する程度に「音声ボリューム」を回し変調レベルを調整して下さい。入力レベルが大きい場合、底面の **INPUT GAIN** スイッチを「L」に切替えて下さい。L/H 切替で 14dB ゲインが変わります。

- 底面の **CLIP** スイッチを「ON」にすると、適正レベル以上の音声入力のピークをソフトクリップします。内部プリエンファシス後に処理するため、高域が強い場合クリップしやすくなります。受信音声がひずんで聞こえない程度にクリップさせると、受信音声レベルを大きくできます。音楽など歪みを少なくしたい際は「OFF」にしてください。「LEVEL LED」はピークリミッタの後にレベル検出し点灯します。
- 底面の **MONO<>STEREO** スイッチでステレオ送信とモノラル送信を切替できます。モノラル送信時は、LR 両方の音声合成されます。両方のチャンネルを入力していればレベルはステレオ時と、ほぼ同じになります。
- 底面の **EMPHASIS** スイッチで、プリエンファシス（高域強調）の ON/OFF を選択できます。通常は ON で使用しますが、外部でエンファシスをかける時や、高域のレベルを落とす際は OFF にします。
- 電波法の規定により、屋外での受信可能範囲は半径 10～20m 程度に制限されます。本器は電波出力の強度を幅広く変えることができますが、電波法制限内最大となるよう正確に出力を調整したい場合は、別途測定器等が必要です。
- アンテナは市販の FM 放送帯対応のものをご使用状況に合わせてご用意下さい。電波法の許す最大限の受信範囲を得るには、周囲に障害物が無くある程度(3～5m)の地上高に無指向性のアンテナを設置することをお勧めします。送信アンテナは当方では扱っておりませんので、アンテナメーカー等にお問い合わせ下さい。簡易的には、付属のロッドアンテナを本器に直接接続し、垂直に伸ばして使用して下さい。屋外常設用には FM 受信用ダイポールアンテナの日本アンテナ製 AF-1-SP を垂直に設置し、ケーブルは 5C-2V 等をお勧めします。
- 「ON AIR LED」は設定した周波数で正常に出力されている時に緑色点灯し、電源立ち上げ時、送信周波数変更時や動作異常時には赤色点灯します。電源投入後数秒間は赤色点灯し、この間送信出力は「電波出力調整」の設定位置によらず、最低レベルになります。これにより電源立ち上げ時や送信周波数変更時に、設定周波数以外で送信することによる他の放送への妨害を抑止しています。
- 送信周波数は通電中でも直接設定できます。70 / 80MHz 台の選択は底面のスイッチ、前面のスイッチの左側が 1MHz 台、右の数字が 0.1MHz 台の周波数を表します。70.0～89.9MHz で送信可能です。
- 76.0MHz より低い周波数は国内の FM 放送用周波数ではありませんが、70MHz から送信は可能です。性能の保証は 76.0～89.9MHz の範囲です。
- 出荷時の電波出力は、付属のロッドアンテナで送信した際に電波法規定内となるよう設定してあります。ダイポールアンテナで送信する場合は「電波出力調整」を半時計回りに回し、出力を最低に設定して下さい。これを上回る出力は法律違反となる可能性があります。アンテナの効率が低いか、ケーブルロスが大きい場合等以外は出力を大きくしないで下さい。「電波出力調整」を時計回りで出力は大きくなります。

【 危 険 】 重大な危険が生じるおそれがあります。下記の事項を守ってご使用下さい。

- ・強い衝撃を与えない
- ・濡らさない
- ・感電防止のため、濡れた手で AC アダプタを触らない
- ・温度の非常に高い場所(+60 以上)で放置、使用しない
- ・湿度の極端に高い若しくは水気のある場所で放置、使用しない
- ・本体内部に異物を入れない
- ・AC100V 以外のコンセントに AC アダプタを接続しない

< 使用上の注意 >

- 許可無く設置できる微弱無線局は、電波法の規定内（無線設備から 3m 離れた場所で、 $500\mu\text{V/m}$ 以下）である必要があります。また他の放送、通信に妨害を与えないよう留意して下さい。
- 日本国内でのみ使用して下さい。
- 長期間使用しない時は、AC アダプタをコンセントから抜いておいて下さい。
- 付属の AC アダプタは AC100V 用です。屋内で使用して下さい。
- 屋内据置使用を前提に作られています。耐候性、防水能力はありません
- 直射日光が当たる場所など特に高温になる場所や、冬季の屋外など特に低温になる場所では、故障や動作が不安定になる等、不具合の原因になりますので、設置、動作させない様にして下さい。
- 落下などの強い衝撃に耐える様には作られておりません。また、振動を与えるとノイズが変調されますのでご注意下さい。
- スイッチ、ボリューム、各端子などに無理な力を加えないで下さい。
- テレビ、ラジオ等電気製品の近くには設置しないで下さい。
- アンテナは、他の電子機器や金属等、障害物から十分離して設置下さい。
- ラジオ、チューナでモニタしノイズがのっている場合は、アンテナや本体の設置場所、ケーブルの引き回しなどを変えてみて下さい。パソコンや携帯電話、調光器、モータを使用した機器など周囲に原因がある場合もあります。ノイズが止まらない場合、送信周波数を変更して下さい。
- AC アダプタを接続しても LED が点灯しなければ、電源が入っていないか故障です。この際は AC アダプタをコンセントから外して下さい。異常に発熱している場合はすぐに使用を中止し点検を依頼して下さい。
- 本体及び入出力ケーブルと AC アダプタ及びそのケーブルを近接した状態で使用すると、送信波にノイズが入る場合がありますので、AC アダプタは十分離してご使用下さい。
- パネル面の印字はステッカですので、縁をこすったりすると剥離する場合があります。結露や水濡れにもご注意下さい。
- 設定周波数及びその付近の周波数（ $\pm 0.4\text{MHz}$ 程度）に他の放送局がないこと、その他の放送等に妨害を与えていないことをご確認下さい。妨害を与えている場合、周波数を変更するか本体やアンテナの位置を変えるなどに対応して下さい。尚、ポケットラジオでは混変調の場合もありますので、他の受信機でも確認して下さい。また、感度の悪い受信機、アンテナを使用する場合は、信号強度の弱い放送局の存在を無視してしまう可能性があるのをご注意下さい。
- 入力レベルが過大となりますと、受信音声はひずみだけでなく、他の放送等に影響を与える恐れが大きくなりますので、ご注意下さい。「LEVEL LED」が緑色点灯する程度にレベルを調整して下さい。
- 本送信機は、音声入力の高い周波数成分（17kHz 以上）をフィルタにより低減していますが、高域のレベルが特に大きい音源では、歪む場合があります。コンプレッサ等の使用を推奨します。または、レベルをやや下げるか高域をイコライザ等で落として下さい。
- 7Vp-p を超える信号、または $\pm 4\text{V}$ を超える直流は入力しないで下さい。

<仕様>

送信周波数 : 76.0~89.9MHz 0.1MHz 間隔
 発振方式 : PLL シンセサイザ方式
 変調方式 : FM ステレオ/モノラル
 送信電力 : 最大 0.1mW 以上 最小 1 μ W 以下
 (連続可変)

公称出力インピーダンス : 50

アンテナ接続端子 : BNC-J

音声入力端子 : ミニ 3 極フォーンジャック(3.5mm)

音声入力 : アンバランス方式

入力インピーダンス : 約 10k

音声入力レベル範囲 : 0.3Vp-p ~ 5Vp-p

音声周波数特性 : 20Hz ~ 15kHz@2dB

LR レベル差 : 0.5dB 以内

LR チャンネルセパレーション : > 40dB@1kHz
 (100%変調)

THD : < 0.1%@1kHz (100%変調)

S/N : > 70dB (JIS A 100%変調時)

プリエンファシス : 公称 50 μ sec / OFF
 (日本国内仕様)

ステレオパイロット周波数 : 19kHz \pm 2Hz

電源 : 本体 DC10 ~ 15V

付属 AC アダプタ使用 : AC100V 50/60Hz

消費電力 : 約 2W

本体消費電流 : 150mA

動作温度範囲 : 0 ~ +50 (周囲気温)

保証規定

ご購入後 3 年以内の故障は、無償修理いたします。但し筐体が開けられていないことと不適切な取扱いが無いこと、天災、過失によらないことが条件です。筐体の傷などは修理対象外です。

* ご不明の点や、動作がおかしい場合は、まず症状などをご連絡下さい。

* シリアル番号で販売年月日を管理していますので、保証書は添付しておりません。シリアル番号は本体底部に記載している 6 桁の番号です。

* パネル面印刷フィルムの若干のゆがみや傷がある場合がありますが御容赦下さい。

* 出張修理はいたしません。修理には一週間程度いただきます。

* 本器の使用によって生じた損害に関しては、一切責任を負いません。

不明点や不具合等があればご連絡下さい。連絡先は下記メールアドレスにお願いします。

設計・製作 **txDesign** 

<http://www.ne.jp/asahi/ak/fe/tx/>

メールアドレス : tx@air.email.ne.jp